



要件定義書における 品質要求記述の十分性の分析

■ 教授 **海谷 治彦** ■ 理学部 ■ 情報科学科

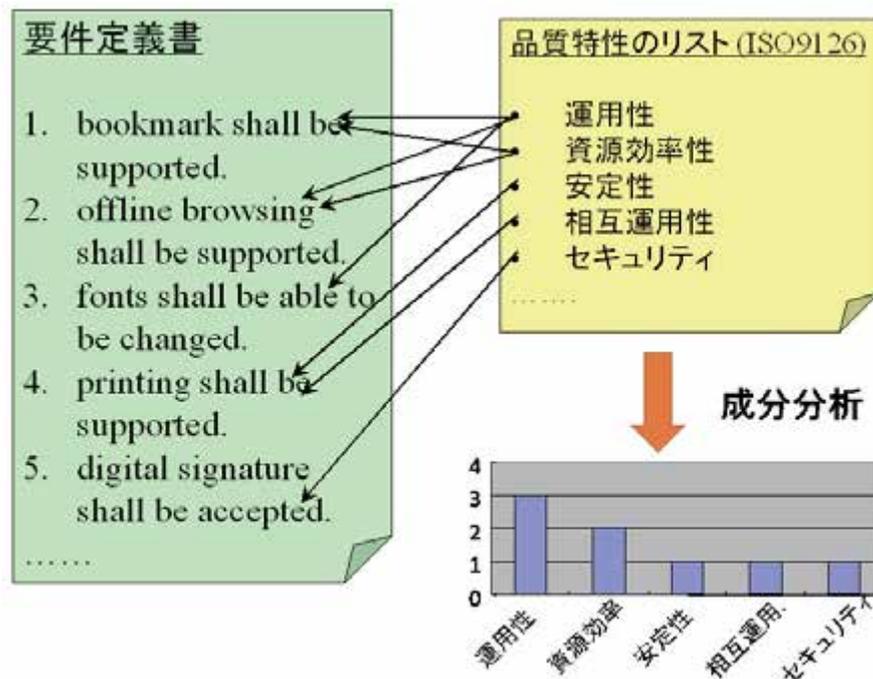


キーワード

ソフトウェア工学・要求工学・品質要求・ISO9126・スペクトル分析



情報システムの開発を外部に依頼したり、開発提案を外部から募集したりする場合、要件定義書（要求定義書）やRFPという文書を作成する必要があります。その文書ではシステムが持つべき機能を明示しなければなりません。近年では、それに加えて、セキュリティ、使いやすさ、効率性等の品質要求定義も明確にする必要が高まってきました。本研究は、日本語もしくは英語で記述された要件定義書等の出現語句の種類および頻度を分析し、当該文書において、品質要求が十分に記述されているかどうかの簡易チェックを行う手法です。これによって、例えば、セキュリティや相互運用性に関する説明が不十分であることが機械的にわかります（下記の図参照）。



既存の研究は、複雑なテンプレートや、込み入ったカタログ等から定義すべき品質要求項目を選び、それを記述する必要がありました。これは、要件定義書等の記述担当が事前にかなり多くのことを勉強し、準備する必要があります。本手法は、基本的に自由に日本語もしくは英語で文書を作成し、それを分析プログラムで処理するだけでよいので、現実的に実務に適用しやすいものと思われます。

（ 今後の展望 ）

前職での成果なため、分析ツールの作り直しが必要となります。それが第一の展望となります。将来的には、要件定義書の上に不足部分を可視化する（色付けやグラフ化）機能の拡充を考えたいと思っています。

MESSAGE

大学においては、実務で利用されるリアルな要件定義書を扱える機会が非常に少なく、研究推進の障害となっています。本研究におけるテーマに限定すること無く、要件定義書をどう記述すべきか等について、ざっくりばらんに情報交換ができれば幸いです。

I N F O R M A T I O N

研究概要の説明ページ

<http://grace-center.jp/overview/activities/intro7th>

海谷 治彦, 鈴木 駿一, 小川 享, 谷川 正明, 梅村 真弘, 海尻 賢二. 分析履歴を用いたソフトウェア品質要求のスペクトル分析法. 情報処理学会論文誌, Vol. 53, No. 2, pp. 510-522, Feb. 2012.

<http://www0.info.kanagawa-u.ac.jp/~kaiya/papers/201202-ipsj-qrast.pdf>

分析ソフトウェアは前職の資産なため、再開発の必要がある。